第９２号
令和8年1月16日
編集責任者　鈴木　祥弘

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL 0152-25-3792
FAX 0152-25-3793

網走市小麦出荷施設見学

農民連盟では、12月9日に網走市小麦集出荷施設の研修をさせていただきました。750tのサイロが24基備えられ、合計18.000tの保管が出来るという大きな施設でした。流氷に覆われるオホーツク海でありながらも、船での輸送を行うのは一艘が一度にサイロ2本分(1.500t)の出荷ができ陸送よりも安価であるそうです。船不足で出荷が遅れ各JAのサイロが中々空にならず心配をかけているがご理解して欲しいとのことでした。平成26年に建設された施設は、完成から10年が過ぎ老朽、故障などが少しずつ出てきているとの説明でした。

北見農業試験場の研修、意見交換

12/10に北見農業試験場にて視察研修に行き、馬鈴薯担当の品田博史氏より馬鈴薯の新品種について説明頂きました。

北海道における馬鈴薯生産面積は、昭和60年75000haを境に減少をはじめ、令和2年は約50000ha。そして、近年には48000haと減少傾向にあります。その要因の一つとして、昭和47年に初めて発生したGr、平成27年に発生したGpも大きな原因となっています。新品種の開発にあたり、Gr、Gp抵抗性はもちろん、Yウイルス、疫病、そうか病、近年多発している夏疫病、などの抵抗性を組み込んだもの、そして近年では収量性を組み込んだ後半型の育種を目指しているそうです。しかしながら、交配、品種化には最低11年を必要とし、時間がかかることも説明頂きました。

新しく令和8年に北海道優良品種を目指しているのが「北育35号」です。Gp抵抗性はありませんがGr、pvy抵抗性を含み、澱粉収量はコナヒメ対比107％多収ですが、熟期はコナユタカよりも遅いため早堀りは不向きです。一般流通は令和12年頃になるそうです。

私が説明を受けた中で気になったのは、北系〇号、次に北育〇号、そしてやっと品種としての名前がつきます。それはまだ北系の名前しかついていませんが「北系90号」です。熟期はコナヒメ並みとやや早め、ライマン21％、澱粉収量はコナヒメ対比125％と高く、熟期、収量、両方に期待の持てる品種だと思いました。

そして、気になる「ユーロビバ」熟期はコナユタカより1日遅く晩成、澱粉重はコナヒメ対比114％と高く期待が持てる品種だと思いました。塊茎離脱率がフリア並み～劣った、ということで、ストロン離れに注意が必要になってきます。

近年は夏の猛暑、病気、害虫の多発、そして新たなる病気の発生と品種開発のペースを上回る気候変動と病気の発生となっているように思われます。Gp、Gr抵抗性品種の普及は必須ですが、抵抗性を求めれば、熟期が遅い、ストロン離れが悪いなどのマイナス要素を飲み込んでいかなければなりません。機関のユーロビバへの期待は高く、今度の北海道の澱粉原料用馬鈴薯の生産振興、並びに馬鈴薯澱粉の安定供給に資するものと期待されています。

岩崎　誠

北見地区農民連盟「中央要請行動」

6月16･17日の日程で北見地区農民連盟連44名、清里からは吉田と倉内事務局長の2名が参加してきました。今年は例年に比べて、多くの方が集まったそうです。1日目の始めに、参議院議員会館の会議室にて立憲民主党の国会議員の方々に農業･農村の生産基盤維持に関する提言書について、要請･意見交換をしました。

その後、2日間にかけて農水省、に対して、農業･農村の生産基盤維持に関する提言書を提出し、それに対して回答書をもらい、意見交換を行いました。

1日目の内容としては、畑作農業の経営所得安定対策「生産資材価格高騰時の補填対策の構築」「畑作物の直接支払交付金算定の見直し」について、意見交換しました。その後、道選出国会議員等を訪問し、要請を行いました。

2日目の午前は、酪農･畜産の経営安定に資する所得安定対策の確立「将来を見据えた各種目標の設定について」「経営継続が可能な新たな所得安定対策の策定」「配合飼料価格安定制度の安定運用と安定運用と制度見直し」「地域経済存続に資する酪農･畜産生産基盤の維持に向けた対策の強化」「生産現場の実態に則した事業要件の緩和」「家畜防疫対策の継続･強化」について、意見交換を行いました。午後からは、持続的な畑作農業の政策確立について「基本計画に基づく食料安定供給体制の確立と予算の確保」「合理的輪作体系の維持を図る畑作物の事業の構築と十分な予算確保」「てん菜の安定生産の確保」「麦･豆類の需要拡大と生産意欲向上制度の構築、事業要件の緩和」「馬鈴しょの安定生産対策とシロシストセンチュウ対策の継続」「気象変動、高温･猛暑に対応した生産体制の確立」「水田政策の見直しにおける畑地化農地への公平な支援」について、意見交換を行いました。終了後、国民民主党の国会議員の方々に農業･農村の生産基盤維持に関する提言書について、要請･意見交換をしました。

今回の要請活動を通じて、共通する課題がある一方で、同じ北見地区でも抱えている課題が異なる場合があることにも気づかされました。また、意見や要望を正確

編集後記

年も明け、税関係や計画書などで動き始めた頃と思います。外出する機会も増えますし、風邪も流行っているようなので健康には十分気を付けて過ごしていただければと思います。